



1. 事故を少なく
留学で何を学ぶか
3. 高級道路?

1. 9月某日朝刊新聞に都内高速道路建設現場において地盤崩壊事故が発生し4名の犠牲者がでたことが報道されていた。最近この種の都市土木工事における事故が多く、一般市民の中には、またかという思いをいだいた人も少なくないであろう。

都市土木工事の特殊性の一つは、その仮設工事の重要性が他の土木工事とは比較にならないほど大きいことである。立地条件からその仮設工事の問題は社会問題と直結しており、都市土木工事は仮設工事がすべてであるといっても過言ではないであろう。ところで最近の都市土木の発展は目覚ましく、その立地条件はますます複雑化の傾向にあり、施工の困難性は増加する一方である。仮設工事の重要性の比重は大きくなるばかりであるが、この点の認識不足が相つぐ事故の原因の一端になっているものと思われる。この際、われわれ土木技術者は、都市土木工事における仮設工事の重要性を再認識し、2度と事故のないよう深く反省する必要がある。

これが技術者として、犠牲者の霊に対するせめてもの供養になるであろう。

[J]

2. 留学生が交替する季節になった。最近、ことに科学技術関係の研究および教育にたずさわるの間では、海外留学は珍しいこととはいえなくなってきた。留学の機会が多くなったこと自体は結構であるが、その反面、何のために行くのかを真剣に考えなくなる傾向があると感じるのはひが目であろうか。

明治百年の間に日本は西欧の技術をほとんど完全に吸収し、それを発展させる科学的な手法もマスターしてしまった。その浸透の速さは世界中の驚異的であるが、それに反して、科学技術の発達之母体となった西欧の精神文化は技術と平行して輸入されながら、学者の研究対象あるいは思想家の発想の契機とはなっても、社会一般の精神的な風土を変えるほどの影響はもたらさなかった。これが戦前の富国強兵と戦後の経済発展を支える要因であったことは確かであるが、それでは、これから先はどうなるのか。物質文明を十分に吸収したつぎの段階として、良かれ悪しかれ、精神面の西欧化が進行するであろう。それにどう対決して行くか——日本人であれば土木屋にとってもこれは一つの命題である。このような関心を持つ人が欧米の風土とそこに住む人間に接する機会をえれば、それは何らかの思考の展開をもたらす動機となり、日本と日本人に対する理解を深める結果となるに違いない。はじめからこんなことを目標に掲げたのでは出るのは金も出なくなるおそれがあるが、情報交流の発達した今日、異質な環境に身を置かなければえられないものを掴んでくることに留学の意義をより多く見出さなければ、それこそ金と時間の無駄というものではなからうか。

[S]

3. 10月の声を聞くと、さすがスモッグで汚れた空もすがすがしい感じを抱かせる。気持の良い空にさそわれてか人々はハイキングに、ドライブに、汽車旅行にと各自それぞれのプランで出かけることが多い。それにあわせて今年も国鉄は10月1日から、特急、急行の増発を行なっている。このような旅行をするときつくづく感じるのは道路の整備状況である。近年このような自動車交通のための道路網は見事に整備され、それについては土木屋の一員として他の人に胸をはって誇りたい気持になるのだが、同時にあまりに自動車本位になりすぎて、サイクリングの姿がみられなくなってきたのは一考する余地がある。ポンコツの自転車を買ってでも、秋晴れの下、家族、友人達と弁当持ちではしらせるのは考えただけでも楽しいし、走らない自転車を味のない室内で健康管理とはいいいながら一生懸命こいでいる有名人が馬鹿にみえてくる。

しかし、自転車によるこのような小旅行はいまでは自動車のため命がけである。病気になる前の体力づくり、肥満児対策としてなぜ厚生省、文部省は積極的にこのことを世間に訴えないのだろうか、なぜ道路行政を考えるお役人もこのことを考えないだろうか、太った腹をなでながら私は秋に思うのである。

[C]